

日 時：平成 26 年 1 月 23 日（木）14：00～16：30

場 所：テクノサポート岡山 大会議室
「環境リスクコミュニケーションセミナー」

プログラム②

リスクコミュニケーション取組事例紹介

講師：大鵬薬品工業株式会社

工場総務部 岡山総務課 課長 阿部信行 氏

ご紹介いただきました。大鵬薬品、岡山工場の総務課の阿部と申します。よろしく願います。通常ならですね、ここは私ども愛情 1 本チオビタドリンクの製造工場でございますので、菅野美穂さんのお写真がふさわしいんですけども、それを使いますとですね、プロダクションの許可が要りまして、許可を取る時間がなかったものですから、このビオトープの写真でこらえていただきたいと思います。それでは説明させていただきます。

まず大鵬薬品なんですけども、チオビタとで有名であるんですが、実は私どもの主力製品は抗がん剤でございまして、売上の 80% 以上を抗がん剤で占めております。TSRとか UFT という系の化学療法剤のリーディングカンパニーとしてですね、ところのような企業でございます。本社は東京、よく徳島と間違えられるんですけども、本社は東京でございます。売上高 1,250 億円、従業員 2,500 人、こういう会社でございます。これが本社でございます。チオビタの看板を出しております生産工場はですね、岡山備前市と埼玉、犬山、徳島、徳島に北島と二つ主力工場がございます。ほとんど製品は徳島がメインで、備前のほうはチオビタ専用工場、埼玉はここの抗がん剤の原末薬を作っている工場でございます。犬山はハローキヤックという尿疾患剤を作っておりますので、その原末を少し作っているような工場でございます。

岡山工場、位置は備前市にございます。備前市の特徴なんですけども、有名なところで閑谷学校ですね、カキオコで有名な日生の五味の市がございます。備前焼が有名でございます。ここでなぜ備前市の説明をしたかと言いますと、備前市はフルーツが有名で、あと海産物も有名でございます。備前焼、それに並んでですね、チオビタドリンク、全国で備前市しか生産をしていないということと、備前市の水道水を使って作っているということで、4 年前に特産品にさせていただきました。ですからチオビタドリンクは備前市の特産品としてですね、備前焼とともにいろんな地域で宣伝をしていただいております。これが当工場で作っているチオビタシリーズでございます。従業員はと言いますと、57 名で運営をしております。一班 10 名で 4 班 3 交替土日休日なしの 24 時間製造で動いております。生産数ですが、1 ロット 638,000 本、1 日製造本数 200 万本、年間生産能力 2 億 8,200 万本でございます。現在がちょっと値上げをしまして、売上が落ちておりますので、8 割くらいの稼働で 2 割くらい休んでおります。これがチオビタドリンクですね。工場なんですけども、こういった工場、自然豊かな工場で製造しております。ここの部分、後で説明しますが、ビオトープを作らせていただきました。

「環境に配慮した工場を目指して」ということで、リスクミとは直接それを目的に作っ

日 時：平成 26 年 1 月 23 日（木）14：00～16：30

場 所：テクノサポート岡山 大会議室
「環境リスクコミュニケーションセミナー」

たわけではないんですけども、それが大きく、本来の環境リスクミに役立ったということでございます。このビオトープを設置するのにですね、非常にいろいろ苦労しまして、思い立ったのは3年、今から6年くらい前なんですけれども、計画をしてから作るまでに3年を要してしまいました。やはり日本で初めて排水を直接ビオトープを経由して流そうということなので、なかなか許可をいただくのに大変でしたですね。特に漁協、それから久々井の皆さま、なかなか理解をしていただけません。熱意は十分分かるということなんですけど、実際、どういう影響があるのかということでもございました。そのへんを何回も何回も話していくうちに、いろいろなアイデアもいただきまして、それをビオトープに取り込んで、現在の形ができあがったという次第でございます。

ビオトープとはどういうものかと言いますと、私たちチオビタドリンク1日100万本作りますから、ビンの洗浄水と、それから冷却水があるので1日100トン、水を使います。その100トン、今まで40度の温度があつて、綺麗すぎるということで全部下水道に流していました。これを海に直接流すという過程ですね、漁協さんなんかの場合は、コンクリートを使う、そういうプールみたいなものがあるわけなんですけども、そういうのを使わずに海に流してほしいと。地区の皆さまからは魚が減ってきたので、何とか増えるようなことを考えてくださいと。以上2点、宿題をいただきまして、その中で、私たちもいろいろ考えたんですけども、先ほど図にあったようにですね、非常に緑地面積が少ないんです。27%しか植えてないんですね。ここに大きな、冷ます水槽なんかを作った日にはですね、緑地面積が25%減ってしまいます。じゃ、いかなるものかを考えて、ビオトープが特例としてですね、緑地面積に含めてもよいということがございましたので、その案で決めたんですね。もともと、この環境に優しいとか、目的をそういうふうに書いていますが、実は原価を下げるために、これで1200万浮くんです。私は経理出身ですから、1200万浮かそうと思って始めたら、皆さんがいろんな意見を出してくれましてですね、こういうビオトープが成立したというのが本当のところなんです。

地域の方と本当にいろんなお話をする間に親しくなしまして、いろんな要望やいろんなことが出てまいりました。こうした、今は広報が作った文句なんですけども、自然との共生をテーマに設置しますということになったんですけども、実際は原価を下げたいという目的で作り上げたことですね。いいほうに

当初は本当に何もなしからスタートし、ほかに文献も何もない中で、自分の勘といろんな人の意見が頼りだったものですから、ビオトープを作っていくにあたり、行政をはじめいろんなところに聞いていったというのが、人間関係ができていったはじまりかもしれません。これがビオトープでございます。備前焼の壺ですね、備前市の職員の人から、みんな工場見学に来られるんなら、備前宣伝してよと言われましてですね、ここに壺を置こうという話になったんですね。当初は造園家さんが持ってきた計画は噴水でした。ここでちょっと宣伝して、備前焼の壺から出るんですよと。特にきれいになっているということ強調できて、やはり良かったですね。後は水車を作りまして、こんな感じのビオト

日 時：平成 26 年 1 月 23 日（木）14：00～16：30

場 所：テクノサポート岡山 大会議室
「環境リスクコミュニケーションセミナー」

プができあがったわけですね。全長 300m ございます。40 度の水を 300m の距離を使って、1 日 100 トン、この水量が 100 トンあるものですから、1 日かけて外気温まで冷ましてから海に流そうという計画をしたんですね。300m で実際下がるのか、数値で出せという話になりまして、そんなものは出ない。どこにもやった人がいないんだから、何も出ないですね。そんなことで苦労しまして、いろんなものを考え出して、皆さんの協力がありながら、許可をいただき、ビオトープが完成したという次第です。

実際にできますとですね、これは非常にコミュニケーションを取るのによかったですね。皆さん、環境には関心がございます。単にチオビタの製造工場だけだったら見に来てもつまらないから、あまり来ていなかったんですけども、このビオトープを作ってからですね、年間 2,000 人くらいの方が見に来てくれるようになりました。そこで、私たちもいろんなお話ができるようになりました。それと同時にですね、我々が行っている環境に対するいろいろな考え方もここで説明ができます。皆さん最後に言われるのは、こんな環境を考えている会社は間違いないという目で見ていただけるようになってまいりました。だから工場見学を通して包み隠さず見ていただくというのは、非常に大きな効果があるということでございます。

そうしますといろんな団体がやってくるようになりました。一つは環境の場ですね。こういうことをやったということで、小学生の方がいっぱい来るようになりました。それから当然、久々井地区の皆さんはご招待して見ていただいたわけですが、これによって非常に安心感を覚えていただけるようになりました。それから備前市の、今日も来られているかもしれませんが、備前市の方々も視察していただいております。それから隣の瀬戸内市からも、いろんな団体が見に来るようになりました。遠くは笠岡からもやってこられましたし、いろんなところから見ていただけるようになったということでございます。そして、見られるとですね、社員の意識も変わってきます。非常にきれいに整理整頓をするようになりました。それがまた相乗効果を生みましてですね、こんなきれいな工場なら間違いないということですね。安心してチオビタを買っていただけるようになってまいりました。それから次世代教育とかいい格好をしているんですが、作ったビオトープを見ていただき、一緒に海岸とかいろんなところを掃除をしていただいたり、いろんなことで環境について学んでいただくということをしております。これは私がちょうど説明をしているところなんですけども。若干、本当のビオトープじゃないじゃないかと、よくお叱りを受けるんですが、実際、私たちは後でご説明いたしますけども、このビオトープは 40 度の水を使って作っているんで、通常のビオトープとはわけが違います。同じようなわけにはいかないので、むしろ海岸ですね。久々井の干潟が非常に環境が変わってまいりました。そういうことを目的に作っているよというお話をさせていただいております。ここが最初の部分、きれいすぎて何もない。魚も虫も何も育たないところ、温度も 40 度ありますよということで、実際に手をつけていただいております。

次にですね、そういった形で久々井の皆さんと少しお話ができるようになりました。

日 時：平成 26 年 1 月 23 日（木）14：00～16：30

場 所：テクノサポート岡山 大会議室
「環境リスクコミュニケーションセミナー」

いろいろな相談がやってまいりました。実は掃除の時にですね、チオビタだけを寄付して私たちは清掃には参加していなかったんです。土日になんてしてもクリーン作戦が行われるものですから、私たちは業者を雇って工場の周りをいつもきれいにしています。だからいいだろうという発想をしていたら、ある人が「それはいかん、一緒にやることに意義があるんだ」という話をされましてね、ちょうど4年ぐらい前から、ともに清掃活動を行うようにいたしました。これは閑谷子ども塾の方々ですね。工場見学をした後、一緒に海岸清掃をしたものです。ここに、久々井の湾なんですけれども、ここに水が見えるように、あえて落としております。だからいつでも疑問があれば、水をすくって検査していただいていいですよという形で、どこからでも見えるように、隠しもせずにやっております。そうしますとですね、有機の水を流すことによって、ここに草が、はままつとか、いろんな干潟特有の草が、今までなかったんですけども、わずか3年でこんなに生えてくるようになりました。その周りにはシオマネキが生息するようになったんですね。非常にいい方向にいましたですね。実際、鴨が2000羽くらいやってきてですね、それはうれしいか悲しいんだかよく分からないんですけど、自然にいいよという人もいるんだけど、うちの会社では薬屋がインフルエンザのもとになる渡り鳥を連れて来ていかんという話ですね。広く皆さまには言えずに、黙っておきなさいという話ですから、密かに見たい方は来ていただければ、鴨の大群が見えるということでございます。

この形ですね。これが皆さんと一緒に我々も掃除を始めたところでございます。これは海岸清掃、ちょっと海岸より奥のところなんですけれども、木を切ったり、草を取ったりですね、そういうことを一緒に土曜日に始めました。土曜日とか日曜日にやりますので、ボランティア部隊を結成してやってもらわないといけない。それが悩ましいところなんですけれども、ただで来させるんだから、いろいろ考えましてね、最初に来た人にはジャンパーあげようとか、それでみんな着てやってくださいねとか、そんな感じでちょっと釣りましたですね、来てくれるように推進いたしました。今はもう数年たちまして、皆さん意識が変わりましてですね、進んでやってきてくれる方が多くなりました。次も海岸清掃をやっているところです。これが参加した時のメンバーですね。年3回ございますので、社員1回は出ようというのを推進しながら進めております。

こういうふうな地区の皆さんと一緒にやることによって何が生まれるかという、やはりお互いにコミュニケーションができていくんですね。地域の人と非常にいろいろ和が取れるようになりました。もともと私どもは21年前に久々井地区に進出してきたわけなんですけれども、当時はいっぱいお話をして親しかったわけなんですけれども、世代が交代しましてですね、だんだんメンバーの顔も何も分からなくなってきた。これを利用することで顔が分かります。話すだけでなくいろんなことをします。そうすると自然に打ち解けてですね、いろんな問題が解決しやすくなる。実は先ほど私たち1日100万本製造していると。ですからトラックの数、半端じゃないですね。こんな田舎の細い道を40台のトラックが原材料を含めて行き来をいたします。当初は子どもたちに危ないじゃないとか、

日 時：平成 26 年 1 月 23 日（木）14：00～16：30

場 所：テクノサポート岡山 大会議室
「環境リスクコミュニケーションセミナー」

いろんなことを言われて毎回、毎回、総務の課長は大変だったと聞いていますけども、今は一切クレームございません。それは事前にですね、いろんな話をしながら協力できることは協力していこうということでやっております。

その一例を挙げますと、ちょっと細い、備前に出るまでに細い松本橋という橋がございます。そこを私たちのトラックが 7 時半から 8 時半の間にいきます。ちょっと一本曲がただけで信号が赤になってしまいます。遅刻したじゃないかという話、クレームが入ってまいりました。7 時半から 8 時半は昔は協定で、通行しないということがあったんですけど、代が代わってそれが守られてなかったということが判明しました。それは以前の工場長が約束したことですから守らないといけないので、それを守らせてもらったということです。守ったと同時に、それでは私たちも非常にゴールデンタイムに出荷ができない、原材料が入ってこない、大変なものですから、地区の皆さまにお願いしてですね、松本橋の拡張工事を同時に申請いたしました。そういう形で県に申請をしてもらって、お互いにですね、いい方向にいけるような関係ができたわけです。一企業のために決して道路は拡張してくれませんが、住民の皆さん、他の企業の皆さん、みんなその橋を通る人たちが非常に困っているということで、全員で求めました。申請書を出しました。今年に何とか、いい返事をいただいて、県の方に申請が行って OK になるような運びになるということでございます。

それと私たち薬屋でございますから、先ほど言ったように、がんのリーディングカンパニーとして、健康に注意をしていく活動を応援していく義務もございます。それに関してですね、地区の皆さまと一緒に健康フェアというのを 1 回やりました。これは来て 20 周年だったので、何かやろうよということですね。久々井の方からお話がございまして、納涼大会と一緒にやろうよという話だったんですけど、それだけではうちもなかなかお金がおりないと。それで健康のイベント、うちの社員も含めて久々井の皆さんと一緒にやりましょうということで企画をいたしました。こんな感じで案内文を作りまして、いろんなことをやったんですね。一番は食堂でヘルシーランチビュッフェとかですね、企画しました。ただというわけにはいきませんので、500 円もらってですね、これを皆に食べていただいたということをやらせてもらいました。二部はそのあと納涼大会と一緒にやったということです。久々井の地区の人口が約 400 人なんです。集まったのがうちの社員が来たり、いろんなところから見に来たりもしたものですから、500 名くらい。久々井の人たちよりも多い人数がやってきたらしいですね。今年もやろうかなという話をしたんですけども非常に大変だった。かつてない、いつもは 100 人くらいしか来ないところに 500 人も来て、お互いに大変だったということですね、ちょっと足踏みをして今年ではできなかったという次第でございます。これが健康フェアの様子ですね。実際は納涼大会の写真も作っていたんですけども、これは本社のほうで検閲を受けるものですから、そこで納涼大会の飲んだり食ったりしている写真はふさわしくないということでカットされました。健康フェアのところだけの写真でございます。

日 時：平成 26 年 1 月 23 日（木）14：00～16：30

場 所：テクノサポート岡山 大会議室
「環境リスクコミュニケーションセミナー」

これが備前市と一緒にやりました。その時にですね、健康フェアを久々井の方と社員でやった時、非常に好評だったものですから、備前市のほうから一緒に 11 月の健康フェアにやってくださいというお話になりまして、そちらに応援に行かさせていただきました。それで、乳がん、私たちはがんのリーディングカンパニー、これがうちの宣伝になりますけども、ピンクリボン運動の活動している。いろんなグッズを持っているんですね。その啓蒙活動に協賛させていただいたというところでございます。

地域の経済やコミュニティなどを活性化させる、さまざまなイベントに支援していますということで、備前市のありとあらゆる、ほとんどのことに協賛させていただいております。前はチオビタだけをお渡しして、お茶を濁すという形が多かったんですけども、それじゃコミュニケーションは何も取れない。もらったってどこに大鵬があるのか知らないという備前の方もいらっしゃったというのを聞きましてですね、じゃ、顔を出しに行こうということで、各イベントは全部顔を出すようにして、チオビタの旗をもって、幟を持って、タオルを持って、そういうところへ出かけるようにしました。そうすると何となく皆さん、声を掛けてくれてですね、阿部さんとはなかなか言っていだけませんけども、チオビタさん、チオビタさんと声を掛けてくれるようになりましたですね。非常にコミュニケーションが取りやすくなったということでございます。

これは岡山県の観光協会と備前市の観光協会が主催して、まちぷら、もっと備前を知ってもらおうというツアーですね。それがありましたので受け入れをしましてですね、工場見学をしていただいたところです。人数少ないんですけど、伊部から笹尾山という山越えをしましてですね。笹尾山というのは昔、柴田錬三郎が眠狂四郎の円月殺法を思いついたという峠らしいんですけど、そこまで歩いていくという。これ 2、3 時間歩いた後なんですね、元気なんですけど。そういうツアーとか、それを越えて柴田錬三郎の生家まで歩いていくというツアーの企画のお手伝いをさせていただいたということでございます。あと備前の阿波踊りですね。徳島というと阿波踊りが非常に有名でございます。私たちも徳島から来ている社員が何人もいます。今日もここに来て、先頭で指導をしたメンバーが来ておりますけれども、1 年間ですね、備前市長をはじめ商工会議所の代表の指導をした。今はもう 4 年目なんですけども、大鵬薬品がスタートさせたということでございます。備前祭はお金の面で、人的、いろんな面ですごい力を入れて応援をしている祭でございます。8 月 14 日は、このメンバーに何か励みがないといけないということで、徳島の棧敷ですね、実際に踊る、有料棧敷で実際に踊っていただくのをメインで実施させて、1 年間頑張って練習してくださいという企画の手助けをしております。これは片鉄のウォーキング大会ですね、衣装がついていますが協賛させてもらって、一緒に盛り上げる活動させていただいております。

最後になるんですけども、これは大塚ホールディングスの方針なんですけども、ここに健康に携わっている企業であるということで、ステークホルダーである地域の皆さまの意見を聞いて、環境に優しい企業であるということでございます。それにしたがって、私た

日 時：平成 26 年 1 月 23 日（木）14：00～16：30

場 所：テクノサポート岡山 大会議室
「環境リスクコミュニケーションセミナー」

ちは行っております。ただ、実際は環境リスクコミュニケーションをやるためにやっていた活動ではなく、大鵬薬品を知っていただこうと。この中でも備前で実は全部チオビタを作っていると知らなかった人も多いと思うんです。そういう企業PRを我々は怠ってきた。備前市の方でも知らなかったという方が多かったですね。それを払拭しようということで、とにかく一緒に話しましょう、コミュニケーションを取りましょうということを、私は率先してやってまいりました。その結果、いろんなことが助けていただいたり、こちらも助けたりで、win-winの関係がつかめてきたというのが実情でございます。

やはり企業なので、時には我々も失敗もいたします。実はお恥ずかしい話なんですけども、センサーが異常を起こしてですね、本来下水道に流れないといけない水をですね、オーバーフローして海に流してしまったという失敗がございました。その水自体は水道水なので、洗っていた時の水。社員も休みの時に来ていたものですから、本当に少なかったんですね。どうせきれいな水だから問題ないという発想をしてしまったんですけれども、実はこれ、公害防止協定で下水道に流すものがよそに流れたというのは、非常に違反行為でございますから、すぐに備前市のほうに届出をいたしました。それと同時に、地区の方にも水を止めたのを見られていましたから、ご説明にあがりました。そういうふうに説明しますとですね、実際は大鵬さんだから間違いはないと思うけど、何があったのか心配していたんだとお話をいただきましてですね、やはり隠さず報告するということの大切さを実感しております。あと、やはり社員が、きれいな水だからいいという発想したということが問題だということですね。担当が12月にちゃんと全員を集めて教育をする。どういうルートの中の水が大切だとか、どこに流れないといけないといけなのかとか、もし流れた場合にはどういう処置をしないといけないのかとか、そういう教育も完了させております。

そうしたことをやるのが、うちの会社の信用になるのかなと思っております。それと先ほど言いましたように工場見学ですね。地域の皆さまに開放する。これが結構いいですね。包み隠さずお見せすると、皆さん安心していただけます。最後、特に水なんかもですね、実際には下水道に流れる水、選んだ水だけをビオトープに流しているんですけども、すべての水がきれいだと思い込んでいらっしゃる方もいます。そんな会社なら心配ないだろうと地区の方にも言っていたけるようになりました。それとビオトープを作って、もっといいことは散歩コースになるんですね。護岸がありまして、そこが地区の方の散歩コースになっています。絶えず皆さん、ビオトープの中の変化を見てですね、我々よりも詳しい。サギが来て食べちゃったりする。サギが来て食べてるよという緊急電話が、私のところに入ってきたりします。行ってもどうしようもないと思ってしまいうんですけど、せっかくかけてくれたのだから、行かんしょうがないと日曜日に出て行くこともあるんです。そういうこともあります。さらに、ある人が言ってたんですけども、金魚がサギに全部食べられてましてですね、ちょっとショックを受けてましたら、サギが食べるくらいの環境のいい魚なんだと思って、また一から育てなおいなさいと言われたんですけども。実際、そうらしいですね。汚いところとか、汚い川の魚というのは、鳥は食べないそうです。鳥

日 時：平成 26 年 1 月 23 日（木）14：00～16：30

場 所：テクノサポート岡山 大会議室
「環境リスクコミュニケーションセミナー」

が必死になって食べにくるということは、きれいな環境があることの立証みたいなものだ
そうですね。そういうことがあるということでございます。ちょっと持ち時間早いですが、
よろしいでしょうか。では、これで終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。